

# 伊那谷・経済動向

## 中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuschoo-shinkin.jp/>

ALSHIN  
BANK

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業案内所管内)		30/11 1.89 倍	29/11 1.97 倍	前年同月比 -0.08 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	7,594 台	7,059 台	7.58 %
	中古車	2,086 台	2,005 台	4.04 %
	合計	9,680 台	9,064 台	6.80 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		9~11月 267 件	9~11月 209 件	27.75 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		53,977 人	48,659 人	10.93 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	294,872 台	292,516 台	0.81 %
	出	281,741 台	281,456 台	0.10 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	337,779 台	345,160 台	-2.14 %
	出	343,606 台	350,172 台	-1.88 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	107,803 台	74,185 台	45.32 %
	出	109,655 台	76,732 台	42.91 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	280,392 台	312,921 台	-10.40 %
	出	284,190 台	309,051 台	-8.04 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	54,465 台	- 台	- %
	出	49,114 台	- 台	- %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	258,831 台	255,427 台	1.33 %
	出	253,018 台	253,254 台	-0.09 %

前期 7 - 9 月    今期 10 - 12 月    来期 1 - 3 月    4 - 6 月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先202社に対し、平成30年10月～12月期の景気の現状と平成31年1月～3月期の見通しを調査したものです。

## 地区内の景況観

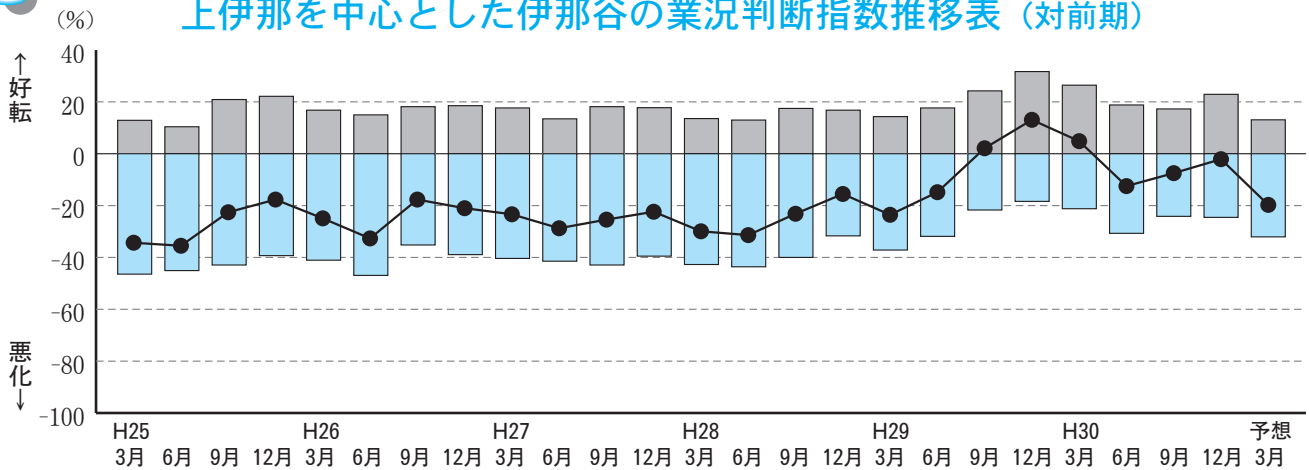
◇**今期の業況**:今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は**24.0%**(前期**18.1%**)、悪かったとする企業は**25.1%**(前期**24.7%**)、DIは**▲1.1**(前期**▲6.6**)と**5.5**ポイントの上昇で、水面下ながら2期連続の改善となっている。

業種別のDIを見ると、**製造業12.9**(前期**2.9**)、**建設業0.0**(前期**▲2.5**)、**卸売業20.0**(前期**0.0**)、**小売業▲29.0**(前期**▲36.4**)、**サービス業▲19.2**(前期**▲13.0**)、**不動産業16.7**(前期**33.3**)で、製造業・卸売業・不動産業がプラス領域、小売業・サービス業はマイナス領域となっている。前期と比較して、**製造業は10.0**ポイント上げ好調感が強まり、**卸売業は20.0**ポイント上向いた。**建設業は2.5**ポイント改善し±0、**小売業は水面下ながら7.4**ポイント改善した。**不動産業は16.6**ポイント下げ弱含み、**サービス業は6.2**ポイント下げ悪化幅が拡大した。

◇**来期の見通し**:来期の業況を総合的に見ると、良いと予想する企業は**13.7%**(今期**24.0%**)、悪いと予想する企業は**32.8%**(今期**25.1%**)、DIは**▲19.1**(今期**▲1.1**)と悪化幅が拡大する予想をしている。

業種別のDIを見ると、**製造業▲11.4**、**建設業▲7.5**、**卸売業▲30.0**、**小売業▲25.8**、**サービス業▲50.0**、**不動産業0.0**となっており、不動産業以外はマイナス領域を予想している。今期と比較して、**不動産業は16.7**ポイント下降で好調感が後退する見通しとなっている。**製造業は24.3**ポイント下降、**卸売業は50.0**ポイントと大幅な下降でそれぞれマイナス転換、**建設業は7.5**ポイント下げ低調感が表れ、**サービス業は30.8**ポイント下げ深刻さが増す見通しとなっている。一方で**小売業は3.2**ポイント上昇で水面下ながら改善の見通しとなっている。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表 (対前期)



※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。  
 ※DIとは、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。  
 なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

## 業種別天気図

業種	時期	平成30年 4～6月期	平成30年 7～9月期	平成30年 10～12月期	平成31年 1～3月期予想
総合		☁️	☁️	☁️	☁️
製造業		☁️	☁️	☁️	☁️
建設業		☁️	☁️	☁️	☁️
卸売業		☁️	☁️	☁️	☔️
小売業		☔️	☔️	☁️	☁️
サービス業		☁️	☁️	☁️	☔️
不動産業		☁️	☀️	☁️	☁️



## 製造業 (調査先企業77社 うち回答企業70社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**31.4%**(前期**24.3%**)、悪かったとする企業は**18.5%**(前期**21.4%**)でDIは**12.9**(前期**2.9**)と**10.0**ポイント上昇した。前期まで3期連続で軟調に推移していたが良化となった。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**18.6**(前期**▲5.7**)、**受注残**のDIは**8.6**(前期**▲12.9**)とそれぞれ**24.3**ポイント、**21.5**ポイント上昇で増加に転じた。**収益**のDIは**0.0**(前期**▲18.6**)と**18.6**ポイント上昇で回復の兆しが見えた。価格の面では**原材料価格**のDIは**▲40.0**(前期**▲47.1**)と上昇幅が縮小した。**販売価格**のDIは**2.9**(前期**5.7**)と小幅な上昇となっている。**資金繰り**のDIは**1.4**(前期**▲1.4**)と僅かにではあるが窮屈感を脱した。**借入れ**をした企業は**33.3%**(前期**33.3%**)、**設備投資の実施**をした企業は**54.9%**(前期**52.2%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**はDI**11.4**(前年同期**28.2**)と**16.8**ポイント下降した。**収益**はDI**0.0**(前年同期**19.7**)と**19.7**ポイント下降した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DIは**▲11.4**(今期**12.9**)と**24.3**ポイント下降で厳しさを強め、平成29年6月期以来のマイナス領域を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**はDI**▲5.7**(今期**18.6**)、**受注残**はDI**▲7.1**(今期**8.6**)とそれぞれ増加から減少に転じる見通しである。**収益**はDI**▲24.3**(今期**0.0**)と低迷の見通しである。**原材料価格**のDIは**▲35.7**(今期**▲40.0**)と価格の上昇を予想する企業は今期より減少、**販売価格**のDIは**▲1.4**(今期**2.9**)と僅かにではあるが下降へ転じ厳しくなる見通しである。**資金繰り**のDIは**▲4.3**(今期**1.4**)と厳しい状況に転じる見通しである。**借入れ**を予定している企業は**28.4%**(今期実施**33.3%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**45.2%**(今期実施**54.9%**)となっている。

### ◆DI指数推移

	平成29年	平成30年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業況	35.2	23.5	4.2	2.9	12.9	▲11.4
売上額	31.0	5.9	▲5.6	▲5.7	18.6	▲5.7
受注残	19.7	10.3	▲5.6	▲12.9	8.6	▲7.1
収益	21.1	2.9	▲5.6	▲18.6	0.0	▲24.3
販売価格	▲4.2	2.9	▲1.4	5.7	2.9	▲1.4
原材料価格	▲42.3	▲44.1	▲47.2	▲47.1	▲40.0	▲35.7
原材料在庫	11.3	5.9	12.5	14.3	10.0	8.6
資金繰り	4.2	4.4	0.0	▲1.4	1.4	▲4.3

### ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借入実施	した	28.2	36.8	30.0	33.3	33.3	28.4
	しない	71.8	63.2	70.0	66.7	66.7	71.6
借入難易度	容易	9.9	11.8	9.7	8.6	17.4	-
	不変	73.1	67.6	68.1	78.6	66.7	-
	難	8.5	8.8	8.3	7.1	7.2	-
該当なし	8.5	11.8	13.9	5.7	8.7	-	

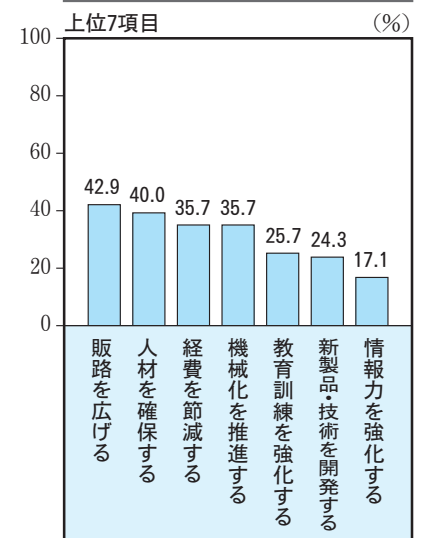
### ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実施	した	50.6	52.3	56.5	52.2	54.9	45.2
	しない	49.4	47.7	43.5	47.8	45.1	54.8
状況	過剰	0.0	2.9	6.9	1.4	2.9	0.0
	適正	66.2	69.2	61.2	68.6	70.0	77.1
	不足	33.8	27.9	31.9	30.0	27.1	22.9
DI	▲33.8	▲25.0	▲25.0	▲28.6	▲24.2	▲22.9	

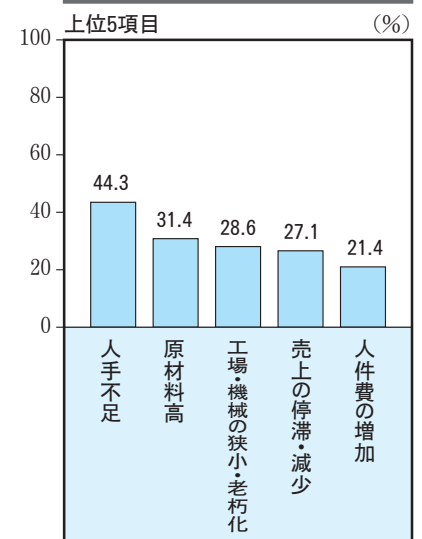
### ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残業時間	増加	33.8	30.9	13.9	17.1	30.0	14.5
	不変	52.1	58.8	56.9	57.2	54.3	60.9
	減少	14.1	10.3	29.2	25.7	15.7	24.6
人手	過剰	2.8	1.5	4.2	7.1	7.1	4.3
	適正	50.7	47.0	63.4	52.9	44.3	56.6
	不足	46.5	51.5	32.4	40.0	48.6	39.1

### 重点経営施策(複数回答)



### 経営上の問題点(複数回答)



# 建設業

(調査先企業43社 うち回答企業40社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**20.0%**(前期**15.0%**)、悪かったとする企業は**20.0%**(前期**17.5%**)で、DIは**0.0**(前期**▲2.5**)と**2.5**ポイント上昇で持ち直した。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**17.5**(前期**▲19.0**)と**36.5**ポイント上昇し増加に転じた。**受注残**のDIは**5.0**(前期**▲9.5**)と**14.5**ポイント上昇し増加に転じた。**施工高**のDIは**15.0**(前期**▲19.0**)と**34.0**ポイント上昇し増加に転じた。**収益**のDIは**▲15.0**(前期**▲16.7**)と**1.7**ポイント改善した。価格面では**請負価格**がDI**▲2.5**(前期**▲2.4**)と下降が上昇を僅かに上回っている。**材料価格**はDI**▲60.0**(前期**▲56.1**)で、価格が上昇したとする企業の割合が増加した。**資金繰り**については、DI**▲20.0**(前期**▲14.3**)と**5.7**ポイント悪化した。**借入れ**をした企業は**41.0%**(前期**42.9%**)、**設備投資の実施**をした企業は**43.5%**(前期**39.6%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**5.0**(前年同期**27.5**)と**22.5**ポイント下降し増加幅が縮小、**収益**のDIは**▲25.0**(前年同期**10.0**)と**35.0**ポイント下降し水面下に落ち込んだ。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**▲7.5**(今期**0.0**)と**7.5**ポイント下降を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**はDI**▲2.5**(今期**17.5**)と増加から減少に転じる見通しである。**受注残**はDI**5.0**(今期**5.0**)と今期同様の増加幅の見通しである。**収益**はDI**▲10.0**(今期**▲15.0**)と減少幅が縮小する見通しである。**請負価格**はDI**▲2.5**(今期**▲2.5**)と今期同様で推移する見通しである。**材料価格**はDI**▲37.5**(今期**▲60.0**)と上昇が弱まる見通しである。**資金繰り**はDI**▲17.5**(今期**▲20.0**)とやや改善する見通しである。**借入れ**を予定している企業は**33.3%**(今期実施**41.0%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**25.6%**(今期実施**43.5%**)となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

## ◆DI指数推移

	平成29年 10~12月	平成30年				予 想 1~3月
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	27.5	2.4	▲14.3	▲2.5	0.0	▲7.5
売 上 額	37.5	▲22.0	▲19.0	▲19.0	17.5	▲2.5
受 注 残	30.0	▲22.0	▲14.3	▲9.5	5.0	5.0
収 益	5.0	▲24.4	▲23.8	▲16.7	▲15.0	▲10.0
販 売 価 格	0.0	▲9.8	▲11.9	▲2.4	▲2.5	▲2.5
原 材 料 価 格	▲40.0	▲27.5	▲35.7	▲56.1	▲60.0	▲37.5
原 材 料 在 庫	2.5	0.0	4.8	4.8	2.6	7.7
資 金 繰 り	▲12.5	▲17.1	▲23.8	▲14.3	▲20.0	▲17.5

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年 10~12月	平成30年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
借 入 実 施	した	45.0	48.8	43.9	42.9	41.0	33.3
	しない	55.0	51.2	56.1	57.1	59.0	66.7
借 入 難 易 度	容 易	5.0	7.5	9.7	7.3	5.1	—
	不 変	55.0	65.0	53.7	65.9	64.1	—
	難	22.5	17.5	24.4	14.6	15.4	—
	該当なし	17.5	10.0	12.2	12.2	15.4	—

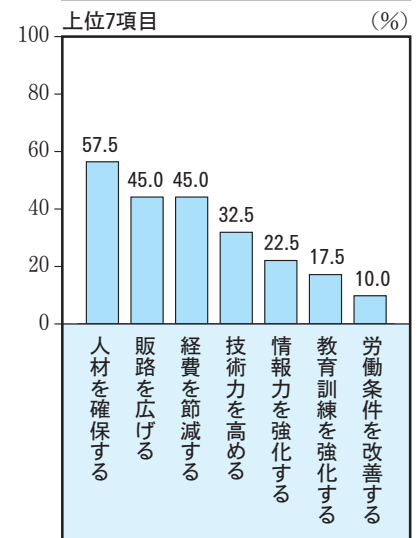
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年 10~12月	平成30年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
実 施	した	39.1	42.2	100.0	39.6	43.5	25.6
	しない	60.9	57.8	0.0	60.4	56.5	74.4
状 況	過 剰	2.5	2.5	2.4	4.9	2.5	2.5
	適 正	85.0	85.0	85.4	90.2	87.5	92.5
	不 足	12.5	12.5	12.2	4.9	10.0	5.0
DI	▲10.0	▲10.0	▲9.8	0.0	▲7.5	▲2.5	

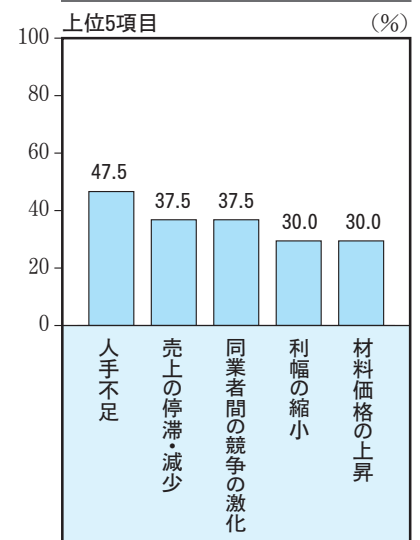
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年 10~12月	平成30年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
残 業 時 間	増 加	25.6	12.2	4.8	7.1	17.5	15.4
	不 変	64.1	78.0	69.0	81.0	75.0	82.0
	減 少	10.3	9.8	26.2	11.9	7.5	2.6
人 手	過 剰	0.0	4.9	4.8	0.0	0.0	0.0
	適 正	55.0	53.6	66.6	52.4	45.0	43.6
	不 足	45.0	41.5	28.6	47.6	55.0	56.4

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



## 卸 売 業 (調査先企業10社 うち回答企業10社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**40.0%**(前期**10.0%**)、悪かったとする企業は**20.0%**(前期**10.0%**)で、**DI**は**20.0**(前期**0.0**)と**20.0**ポイント上昇し好調感が出た。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**の**DI**は**10.0**(前期**40.0**)と増加傾向が後退した。**収益**の**DI**は**10.0**(前期**10.0**)と前期同様の収益幅となっている。**価格面**では、**販売価格**の**DI**は**30.0**(前期**20.0**)と上昇幅が強まったが、**仕入価格**は**DI**▲**30.0**(前期▲**40.0**)と上昇幅が弱まった。**資金繰り**は**DI**▲**10.0**(前期▲**10.0**)と前期同様の窮屈感が推移した。**借入れ**をした企業は**40.0%**(前期**40.0%**)、**設備投資の実施**をした企業は**36.4%**(前期**60.0%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**の**DI**は**20.0**(前年同期**20.0**)と前年同期と同様の増加幅、**収益**の**DI**は**10.0**(前年同期**0.0**)と良好化した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、**DI**▲**30.0**(今期**20.0**)と**50.0**ポイントの大幅下降で、悪化に転じる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**の**DI**は▲**30.0**(今期**10.0**)、**収益**の**DI**は▲**40.0**(今期**10.0**)とそれぞれ増加から減少に転じる見通しである。**価格面**では、**販売価格**は**DI**20.0(今期**30.0**)、**仕入価格**は**DI**▲**20.0**(今期▲**30.0**)とそれぞれ上昇が弱まる見通しである。**借入れ**を予定している企業は**10.0%**(今期実施**40.0%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**0.0%**(今期実施**36.4%**)となっている。

## ◆DI指数推移

	平成29年 10~12月	平成30年				予 想 1~3月
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	10.0	11.1	0.0	0.0	20.0	▲30.0
売 上 額	10.0	▲22.2	22.2	40.0	10.0	▲30.0
収 益	0.0	▲33.3	33.3	10.0	10.0	▲40.0
販 売 価 格	20.0	11.1	22.2	20.0	30.0	20.0
仕 入 価 格	▲30.0	▲22.2	▲22.2	▲40.0	▲30.0	▲20.0
在 庫	10.0	11.1	11.1	30.0	10.0	0.0
資 金 繰 り	0.0	▲37.5	33.3	▲10.0	▲10.0	▲10.0

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年 10~12月	平成30年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
借 入 実 施	した	40.0	55.6	22.2	40.0	40.0	10.0
	しない	60.0	44.4	77.8	60.0	60.0	90.0
借 入 難 易 度	容 易	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	—
	不 変	80.0	77.8	88.9	60.0	80.0	—
	難	0.0	11.1	0.0	10.0	10.0	—
	該当なし	10.0	11.1	11.1	20.0	10.0	—

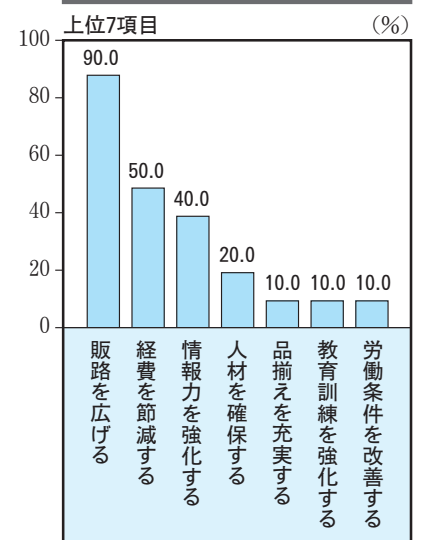
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年 10~12月	平成30年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
実 施	した	0.0	11.1	11.1	60.0	36.4	0.0
	しない	100.0	88.9	88.9	40.0	63.6	100.0
状 況	過 剰	0.0	11.1	0.0	10.0	0.0	10.0
	適 正	80.0	77.8	77.8	80.0	80.0	80.0
	不 足	20.0	11.1	22.2	10.0	20.0	10.0
DI	▲20.0	0.0	▲22.2	0.0	▲20.0	0.0	

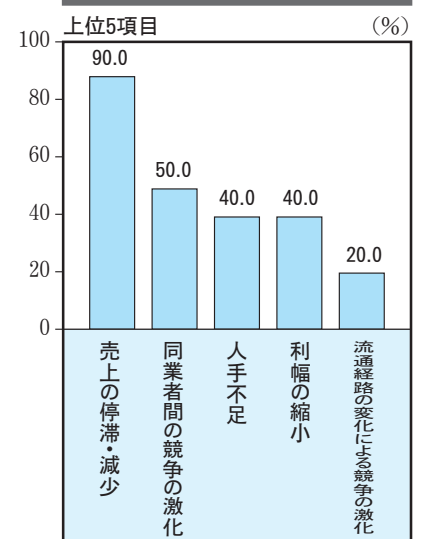
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年 10~12月	平成30年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
残 業 時 間	増 加	30.0	0.0	0.0	30.0	30.0	10.0
	不 変	70.0	88.9	100.0	60.0	60.0	80.0
	減 少	0.0	11.1	0.0	10.0	10.0	10.0
人 手	過 剰	0.0	11.1	0.0	10.0	0.0	0.0
	適 正	60.0	66.7	66.7	60.0	70.0	80.0
	不 足	40.0	22.2	33.3	30.0	30.0	20.0

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



## 小 売 業 (調査先企業39社 うち回答企業31社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は19.4%（前期12.1%）、悪かったとする企業は48.4%（前期48.5%）で、DI▲29.0（前期▲36.4）と7.4ポイント上昇し改善基調を継続した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは12.9（前期▲23.5）、収益のDIは3.2（前期▲26.5）とそれぞれ36.4ポイント、29.7ポイント上昇し増加に転じた。販売価格のDIは16.1（前期17.6）、仕入価格のDIは▲32.3（前期▲32.4）と販売価格・仕入価格ともに前期とほぼ同様の上昇傾向となっている。資金繰りのDIは▲10.0（前期▲23.5）と13.5ポイント増加で厳しさが和らいだ。借入れをした企業は19.4%（前期20.6%）、設備投資の実施をした企業は18.8%（前期13.9%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは3.2（前年同期▲29.7）と32.9ポイント上昇で増加に転じ、収益のDIは▲25.8（前年同期▲32.4）と6.6ポイント改善した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI▲25.8（今期▲29.0）と今期同様に改善基調を維持すると予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲9.7（今期12.9）、収益のDIは▲16.1（今期3.2）と増加から減少に転じる見通しである。販売価格のDIは▲16.1（今期16.1）と下降へ転じて厳しさを強める見通しである。仕入価格のDIは3.2（今期▲32.3）と下降に転じて僅かにではあるが好感が出る見通しである。借入れを予定している企業は22.6%（今期実施19.4%）、設備投資の実施を予定している企業は24.2（今期実施18.8%）となっている。

### ◆DI指数推移

	平成29年	平成30年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	▲16.2	▲11.1	▲42.4	▲36.4	▲29.0	▲25.8
売 上 額	27.0	8.3	▲45.5	▲23.5	12.9	▲9.7
収 益	0.0	▲11.1	▲54.5	▲26.5	3.2	▲16.1
販 売 価 格	16.2	16.7	24.2	17.6	16.1	▲16.1
仕 入 価 格	▲21.6	▲34.3	▲33.3	▲32.4	▲32.3	3.2
在 庫	24.3	22.2	15.2	2.9	12.9	9.7
資 金 繰 り	▲8.1	▲28.6	▲18.2	▲23.5	▲10.0	▲20.0

### ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	13.9	25.7	18.2	20.6	19.4	22.6
	しない	86.1	74.3	81.8	79.4	80.6	77.4
借 入 難 易 度	容 易	19.4	8.8	15.6	17.6	6.5	—
	不 変	33.4	52.9	50.0	41.2	45.2	—
	難	25.0	23.5	12.5	14.7	22.6	—
	該当なし	22.2	14.8	21.9	26.5	25.7	—

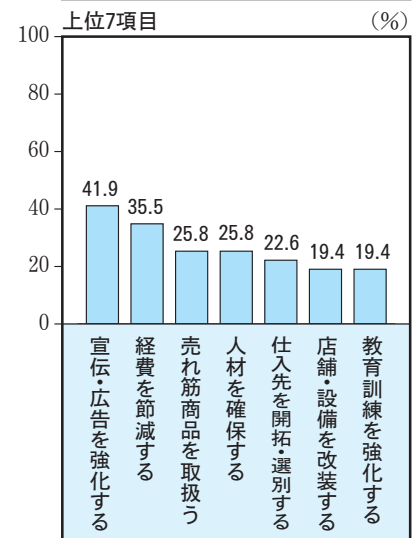
### ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	18.9	10.8	15.2	13.9	18.8	24.2
	しない	81.1	89.2	84.8	86.1	81.2	75.8
状 況	過 剰	8.3	11.4	6.3	9.1	6.7	6.9
	適 正	72.3	62.9	87.4	84.8	66.6	69.0
	不 足	19.4	25.7	6.3	6.1	26.7	24.1
DI	▲11.1	▲14.3	0.0	3.0	▲20.0	▲17.2	

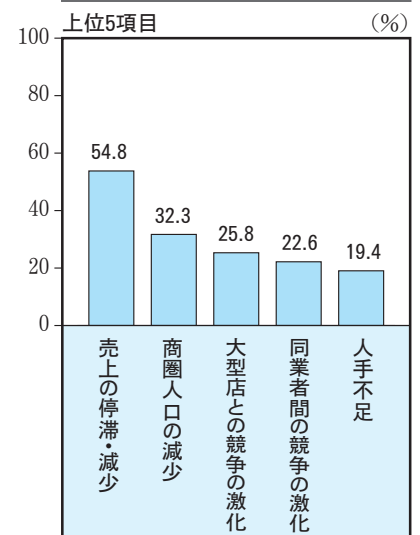
### ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	2.8	2.9	0.0	8.8	6.5	6.5
	不 変	91.7	91.2	97.0	85.3	90.3	83.8
	減 少	5.5	5.9	3.0	5.9	3.2	9.7
人 手	過 剰	8.3	2.9	3.1	5.9	6.5	3.2
	適 正	69.4	71.4	84.4	73.5	70.9	71.0
	不 足	22.3	25.7	12.5	20.6	22.6	25.8

### 重点経営施策 (複数回答)



### 経営上の問題点 (複数回答)



## サービス業 (調査先企業27社 うち回答企業26社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は11.5%(前期13.1%)、悪かったとする企業は30.7%(前期26.1%)で、DIは▲19.2(前期▲13.0)と6.2ポイント下降で悪化幅が拡大した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲3.8(前期13.0)と16.8ポイント減少で増加から減少に転じた。収益のDIは▲11.5(前期▲8.7)と2.8ポイント減少で僅かにではあるが減少幅が拡大した。仕入価格のDIは▲30.8(前期▲34.8)と上昇幅がやや縮小した。料金価格のDIは▲3.8(前期8.7)と僅かに下降へと転じた。資金繰りのDIは▲15.4(前期▲17.4)と僅かに改善した。借入れをした企業は11.5%(前期17.4%)、設備投資の実施をした企業は32.3%(前期41.4%)となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI▲3.8(前年同期▲12.5)、収益はDI▲15.4(前年同期▲20.8)とそれぞれ8.7ポイント、5.4ポイント上昇し改善した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI▲50.0(今期▲19.2)と、悪化傾向が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲42.3(今期▲3.8)、収益のDIは▲42.3(今期▲11.5)とそれぞれ減少幅が大きく拡大する見通しである。仕入価格のDIは▲23.1(今期▲30.8)と上昇が弱まりやや落ち着きを見せる見通しであるが、料金価格のDIは▲11.5(今期▲3.8)と下降を強める見通しである。資金繰りのDIは▲34.6(今期▲15.4)と厳しさを増す見通しである。借入れを予定している企業は19.2%(今期実施11.5%)、設備投資の実施を予定している企業は7.4%(今期実施32.3%)となっている。

### ◆DI指数推移

	平成29年	平成30年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	▲13.0	▲8.3	▲15.4	▲13.0	▲19.2	▲50.0
売 上 額	▲25.0	▲20.8	23.1	13.0	▲3.8	▲42.3
収 益	▲25.0	▲29.2	0.0	▲8.7	▲11.5	▲42.3
料 金 価 格	▲8.3	▲4.2	15.4	8.7	▲3.8	▲11.5
材 料 価 格	▲29.2	▲33.3	▲38.5	▲34.8	▲30.8	▲23.1
資 金 繰 り	▲16.7	▲25.0	▲19.2	▲17.4	▲15.4	▲34.6

### ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	25.0	17.4	20.0	17.4	11.5	19.2
	しない	75.0	82.6	80.0	82.6	88.5	80.8
借 入 難 易 度	容 易	4.8	4.3	12.0	14.3	7.7	—
	不 変	71.4	65.2	64.0	57.1	65.4	—
	難	14.3	17.4	12.0	19.0	11.5	—
	該当なし	9.5	13.1	12.0	9.6	15.4	—

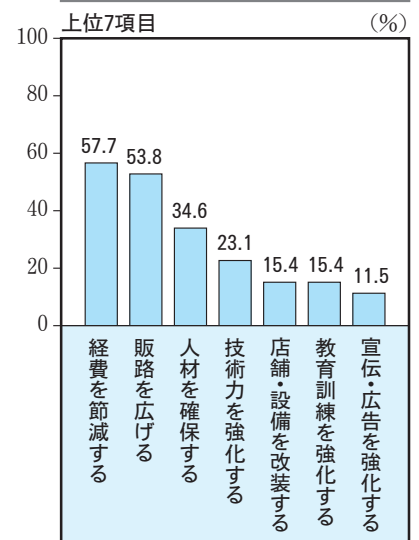
### ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	37.0	24.0	26.7	41.4	32.3	7.4
	しない	63.0	76.0	73.3	58.6	67.7	92.6
状 況	過 剰	4.3	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	82.7	87.5	72.0	63.6	84.0	84.0
	不 足	13.0	12.5	16.0	36.4	16.0	16.0
DI	▲8.7	▲12.5	▲4.0	▲36.4	▲16.0	▲16.0	

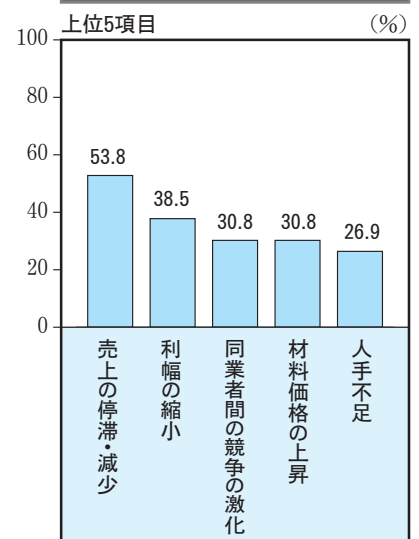
### ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	13.0	13.6	29.2	25.0	12.5	16.7
	不 変	87.0	77.3	62.5	65.0	79.2	62.5
	減 少	0.0	9.1	8.3	10.0	8.3	20.8
人 手	過 剰	4.5	8.3	12.0	0.0	0.0	3.8
	適 正	54.5	58.4	68.0	72.7	69.2	69.3
	不 足	41.0	33.3	20.0	27.3	30.8	26.9

### 重点経営施策(複数回答)



### 経営上の問題点(複数回答)



## 不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業6社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**16.7%**(前期**33.3%**)、悪かったとする企業は**0.0%**(前期**0.0%**)で、DIは**16.7**(前期**33.3**)と好調感が後退した。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**と**収益**のDIは**16.7**(前期**▲16.7**)とそれぞれ増加に転じた。**販売価格**のDIは**16.7**(前期**0.0**)と価格上昇でやや好転、**仕入価格**のDIは**0.0**(前期**16.7**)と下降傾向が一服した。**借入れ**をした企業は**16.7%**(前期**16.7%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**20.0**(前年同期**16.7**)と前年同期をやや上回ったが、**収益**のDIは**0.0**(前年同期**33.3**)と増加傾向が後退した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**0.0**(今期**16.7**)と好調感が後退する予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**と**収益**のDIは**33.3**(今期**16.7**)とそれぞれ改善する見通しである。**販売価格**のDIは**0.0**(今期**16.7**)と今期は上昇であったが価格不変の見通しである。**仕入価格**のDIは**16.7**(今期**0.0**)と下降傾向の見通しである。**借入れ**を予定している企業は**0.0%**(今期実施**16.7%**)となっている。

### ◆DI指数推移

	平成29年	平成30年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	▲16.7	▲16.7	▲16.7	33.3	16.7	0.0
売 上 額	33.3	▲16.7	▲16.7	▲16.7	16.7	33.3
収 益	0.0	▲16.7	▲16.7	▲16.7	16.7	33.3
販 売 価 格	16.7	▲33.3	0.0	0.0	16.7	0.0
仕 入 価 格	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7
在 庫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲16.7
資 金 繰 り	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7

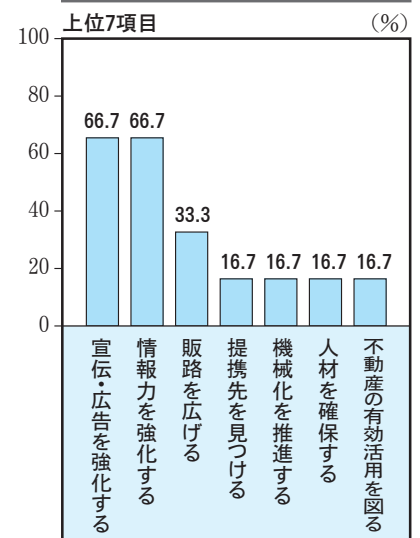
### ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0
	しない	83.3	83.3	83.3	83.3	83.3	100.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	83.3	60.0	83.3	100.0	66.7	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該当なし	16.7	20.0	16.7	0.0	33.3	—

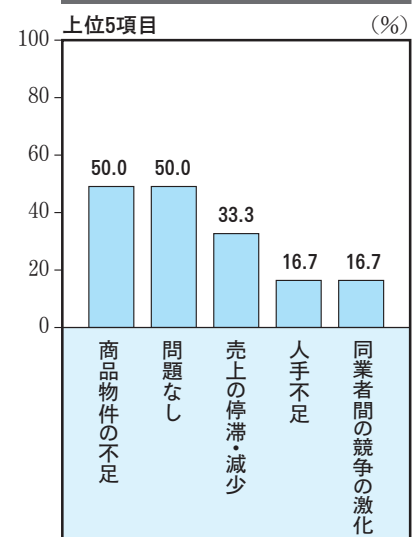
### ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年	平成30年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	減 少	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	100.0	80.0	83.3	100.0	83.3	83.3
	不 足	0.0	20.0	16.7	0.0	16.7	16.7

### 重点経営施策(複数回答)



### 経営上の問題点(複数回答)





## 特別調査 2019年の経営見通し

### 問1 貴社では、2019年の日本の景気をどのように見通していますか。

総合では、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）と回答した企業の割合は低く**16.0%**にとどまっているが、それに比べ『悪い』（「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計）と回答した企業の割合の方が**38.7%**と高くなっている。『良い』-『悪い』は**▲22.7**とマイナス領域となり景況が低迷すると予想している。1年前の本特別調査（2018年の景況見通し）では**11.6**とプラス領域であり、国内外の需要の高まりを受け上向き予想であったが、今回の調査では、本年10月に予定されている消費税率引き上げ等が景気にマイナス影響を与えると考えられている。

業種別に『良い』-『悪い』を見た場合、建設業が**5.1**と一番高く唯一プラス領域、次いで卸売業**▲10.0**、製造業**▲28.5**、サービス業**▲30.9**、不動産業**▲33.3**、小売業**▲40.1**の順となっている。（%）

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	3.3	1.5	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0
3. やや良い	12.7	15.7	15.4	0.0	13.3	3.8	16.7
4. 普通	45.3	37.1	48.7	90.0	33.3	61.5	33.3
5. やや悪い	32.1	37.1	20.5	10.0	46.7	23.1	50.0
6. 悪い	6.6	8.6	2.6	0.0	6.7	11.6	0.0
7. 非常に悪い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 問2 貴社では、2019年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。

総合では、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）と回答した企業の割合は低く**15.9%**にとどまっているが、それに比べ『悪い』（「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計）と回答した企業の割合の方が**37.9%**と高くなっている。『良い』-『悪い』は**▲22.0**とマイナス領域で、自社の業況（景気）は上記の問1の日本の景況見通しと同様に低迷すると予想している。

業種別に『良い』-『悪い』を見た場合、卸売業が**10.0**と一番高くプラス領域、次いで、不動産業**0.0**、建設業**▲12.5**、製造業**▲15.8**、小売業**▲43.3**、サービス業**▲46.1**の順となっている。（%）

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	2.2	1.4	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0
3. やや良い	13.2	20.0	12.5	10.0	10.0	0.0	16.7
4. 普通	46.2	38.6	52.5	70.0	36.7	53.9	66.6
5. やや悪い	29.7	31.5	25.0	10.0	36.7	34.6	16.7
6. 悪い	7.1	5.7	5.0	0.0	13.3	11.5	0.0
7. 非常に悪い	1.1	1.4	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0

### 問3 2019年において貴社の売上額の伸び率は、2018年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

総合では、**37.8%**の企業は変わらないと回答している。『増加』（「30%以上の増加」～「10%未満の増加」の合計）と回答した企業の割合は**31.7%**、『減少』（「30%以上の減少」～「10%未満の減少」の合計）と回答した企業の割合は**30.5%**であった。『増加』-『減少』は**1.2**と僅かにではあるがプラス領域で、『増加』と答えた企業が『減少』と答えた企業を上回った。

業種別に『増加』-『減少』を見た場合、業種によって違いがあり、卸売業が**60.0**と一番高く、次いで製造業**12.9**、不動産業**0.0**、小売業**▲3.5**、建設業**▲10.0**、サービス業**▲30.8**の順となっている。（%）

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 30%以上の増加	0.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 20～29%の増加	0.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 10～19%の増加	8.9	17.4	5.0	10.0	3.4	0.0	0.0
4. 10%未満の増加	21.6	21.7	20.0	50.0	27.6	7.7	16.7
5. 変わらない	37.8	29.0	40.0	40.0	34.5	53.8	66.6
6. 10%未満の減少	22.2	18.9	27.5	0.0	31.1	23.1	16.7
7. 10～19%の減少	5.0	8.7	5.0	0.0	0.0	3.8	0.0
8. 20～29%の減少	2.2	0.0	0.0	0.0	3.4	11.6	0.0
9. 30%以上の減少	1.1	1.4	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0

#### 問 4 貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

総合では、『本年中に良好感が出る』(「すでに上向いている」・「6ヶ月以内」・「1年後」の合計)と回答した企業の割合は**43.6%**で、『良好感が遅れる』(「2年後」・「3年後」・「3年超」の合計)と回答した企業の割合は**23.2%**となっている。一方で「業況改善の見通しは立たない」と回答した企業の割合は**33.2%**となっており、3割強の企業は厳しい業況が続くと回答している。

業種別に『本年中に良好感が出る』と回答した企業の割合は、卸売業が**62.5%**で一番高く、次いで製造業**57.6%**、建設業**37.5%**、不動産業**33.4%**、サービス業**29.1%**、小売業**28.6%**の順となっている。(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1.すでに上向いている	15.1	19.7	10.0	0.0	17.9	12.5	16.7
2.6ヶ月以内	14.0	15.2	15.0	50.0	7.1	8.3	0.0
3.1年後	14.5	22.7	12.5	12.5	3.6	8.3	16.7
4.2年後	9.3	7.6	7.5	12.5	14.3	8.3	16.7
5.3年後	8.1	7.6	7.5	25.0	3.6	12.5	0.0
6.3年超	5.8	6.0	7.5	0.0	7.1	4.2	0.0
7.業況改善の見通しは立たない	33.2	21.2	40.0	0.0	46.4	45.9	49.9

#### 問 5 2018年は地震や台風などの自然災害が相次いだほか、豪雪・寒波や豪雨・猛暑といった異常気象も各地で発生しました。2018年の貴社の経営について、最も影響を受けた自然災害や異常気象をお答えください。また、受けた影響について最も当てはまるものをお答えください。

総合では、最も影響を受けた自然災害等は「台風・豪雨」が**32.0%**と一番高く、次いで「猛暑」**17.7%**、「地震・噴火」**3.3%**、「豪雪・寒波」**1.7%**の順となっている。経営に受けた影響は「仕入・調達・納期の遅れ」が**22.0%**と一番高く、次いで「売上・受注の減少」**20.4%**、「店舗設備や工場等の損壊」**4.5%**、「復旧需要など、むしろ好影響があった」**3.4%**の順となっている。

一方、自然災害等の影響は特にないと回答した企業は**45.3%**、また、経営に影響は受けていないと回答した企業は**49.7%**となっている。(%)

最も影響を受けた自然災害等	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1.地震・噴火	3.3	5.7	2.5	10.0	0.0	0.0	0.0
2.台風・豪雨	32.0	18.6	47.5	70.0	24.1	42.3	16.7
3.豪雪・寒波	1.7	0.0	0.0	0.0	3.5	7.7	0.0
4.猛暑	17.7	20.0	12.5	10.0	34.5	7.7	0.0
5.特にない	45.3	55.7	37.5	10.0	37.9	42.3	83.3
経営に受けた影響	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
6.売上・受注の減少	20.4	10.1	15.4	20.0	25.0	52.0	16.7
7.仕入・調達・納期の遅れ	22.0	23.2	28.2	40.0	17.9	12.0	0.0
8.店舗設備や工場等の損壊	4.5	2.9	2.6	10.0	10.7	4.0	0.0
9.影響は受けなかった	49.7	60.9	51.2	30.0	35.7	32.0	83.3
10.復旧需要など、むしろ好影響があった	3.4	2.9	2.6	0.0	10.7	0.0	0.0

### 商品のご案内

お 使 い み ち ご自由(事業性資金もOK!)

お 申 込 み いただける方

- 満20歳以上、完済時満80歳以下の個人または個人事業主の方
- 当金庫の営業地域内に居住または勤務されている方
- 安定継続した収入のある方(パート、アルバイト、年金収入の方もOK)
- 世帯収入のある専業主婦(夫)の方

ご 融 資 金 額 10万円以上500万円以下(1万円単位)

ご 融 資 利 率

- 保証会社の審査により年5.8%、年9.0%、年13.5%(各金利とも保証料含む:固定金利)のいずれかとさせていただきます。

ご 融 資 期 間 6ヶ月以上10年以内  
但し、ご融資金額が300万円以下の方は7年以内

ご 返 済 方 法

- 元利均等定額返済(ご返済日は毎月6日・16日のいずれかの日となります)
- お申込金額の50%以内についてボーナス併用返済もご用意しています。

担保・保証人 不要 [株式会社セゾン保証付]

●詳しくは当金庫各支店窓口までお問い合わせください。  
●店頭にご覧いただける商品概要説明書をご用意しております。  
●審査結果によってはお申込金額の減額またはご希望に添えない場合があります。